

会津テラス計画、2025 年初夏の状況

磐梯連峰の赤埴山で建設が進んでいる「会津テラス計画」については、本誌で随時報告してきた。2023・24 年には、赤埴林道西端の標高 1250 m 付近から、幅 25 ～ 40 m・西方向へ距離約 550 m の範囲で樹木が伐採された。この中には、ブナが約 450 本含まれる。

図 A は、開発を進めている DMCaizu の HP から抜粋したものである。良く見ると、上記のブナ林伐採地は「緑の回廊」と称する「林道予定地」である。当初の計画に「緊急時の退避路」との説明もあり、私は「林道ではない」と思っていた。私は、この認識の錯誤から「計画書や HP は丹念に見る必要がある」と強く感じた。

この地の樹木の伐採幅は最大約 40 m で、この広い幅は林道建設のためであろう。さらに、この林道はレストハウス建設の資材運搬のためと考えられる。なお、図 A で林道予定地はつづら折れであるが、実際の伐採地は直線である。また、地質学的にはアグルチネートが作る斜面で、林道の建設は極めて難しいと考えられる。さらに、樹木伐採地の中間付近の谷部は、山頂部からアグルチネート塊が大量に崩落した形跡がある。谷部の東西の伐採地には、アグルチネート塊はほとんど見られないが、この谷部だけはアグルチネート塊が密在する。また、現在の赤埴林道で見れば、琵琶沢に面した区域は斜面崩落が多く、毎春の林道の再開通時には、崩落した大量の岩塊が撤去される。私は、夏場の通行の際も落石の危険を感じながら通行している（ネット検索「磐梯山の春景色」参照）。

今春 5 月 21 日に上記の伐採地に行った（図 B）。この場所は、樹木伐採により日当たりが良くなり「ネマガリダケ」の群生が始まっていた。猪苗代では「地竹」と呼ぶ。また、途中まで歩いて行ったところ、体長約 2 m のツキノワグマが出て来た。赤埴山のクマは、私の知る処、かつては山頂部の岩場と桂沢（赤埴山の北西側）・琵琶沢（同東側）方面にしかいなかった。地竹の繁茂により、クマは地竹の若芽を食べに来たものと思われる。なお、クマの近くには地竹採りの人々がいた。今春の磐梯山の野生動物に関しては、ネット検索「NetIB 野生動物」で見えていただきたい。クマの出没も書いた。

5 月 29 日には、レストハウス予定地まで、赤埴山の山頂経由で行った。稜線上では特段の変化はなかった。

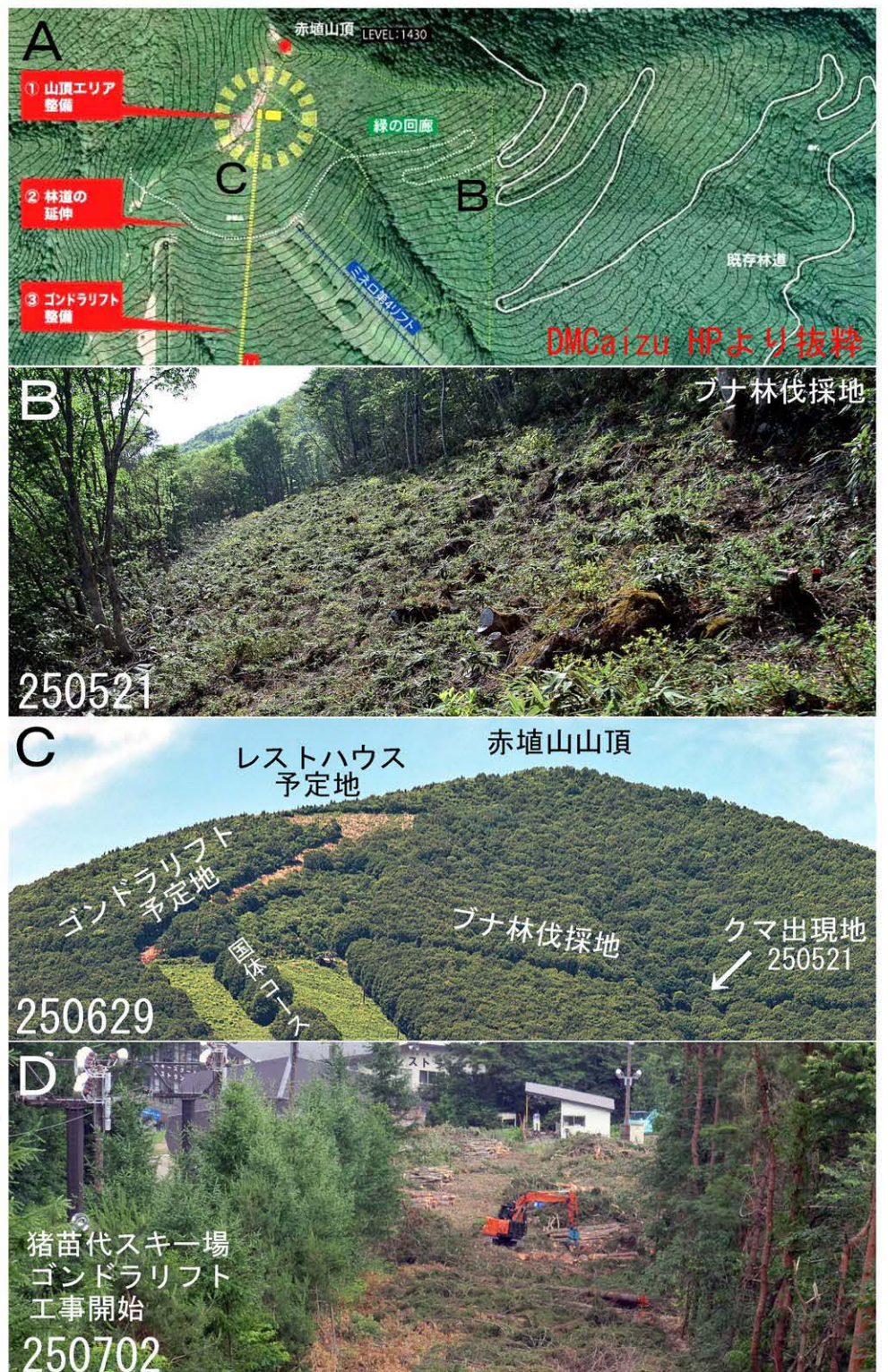
6 月 26 日の夕方、山麓から赤埴山を見ると、レストハウスおよびゴンドラリフト予定地（第 2 区線最上部）が赤っぽく見えた。図 C は、天候が回復した 6 月 29 日に、自宅から望遠レンズで撮影したものである。レストハウスおよびゴンドラリフト予定地付近で、樹木が伐採されたことがわかる。この場所は、昨 2024 年に、国体コース付近と稜線付近から 2 度入って調べた。その際、地竹

などの下草の伐採はあったが、樹木の伐採はなかった。なお、ここは冬場の環境が厳しいので、植生は地竹が大半で、樹木は少なくかつ低木である。また、表土のすぐ下はアグルチネートである。1980 年ころの晩秋に、この上部の稜線を歩いたが、暴風が吹き荒れ、吹き飛ばされそうになりながら、やっとの思いで下山した。冬場は暴風・豪雪地帯である。会津テラス計画では「通年営業」であるが、建設自体が難しく、かつ開業した場合でも冬季営業は極めて難しいと考えられる。

図 D は、7 月 2 日に、猪苗代スキー場の標高約 760 m 付近から見おろした写真である。左端（東側）にはリフトがあり、写真より更に右（西）には登山道がある（昔の登山道はリフトの左約 50 m）。中央の伐採地は標高約 720 m ～ 約 810 m で、樹木が幅約 25 m の帯状（高低方向）に伐採されていた。状況から見て、今後、ゴンドラリフト（第 1 区線）が建設されると考えられる。

このように、会津テラス計画は工事が進んでいる。今後も随時報告をする。

(2025.07.07 福島支部 千葉茂樹)



そくほう No.825

2025 年 11 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

編集 地学団体研究会全国運営委員会事務局

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 4-16-6 古峯ビル 402

Email: chidanken@tokyo.email.ne.jp

郵便振替 00160 - 2 - 144318 地学団体研究会

発行 地学団体研究会

TEL: 03 - 3983 - 3378

FAX: 03 - 3983 - 7525

https://www.chidanken.jp